

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2015-523553

(P2015-523553A)

(43) 公表日 平成27年8月13日(2015.8.13)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
GO 1 N 33/53 (2006.01)	GO 1 N 33/53	D 2 G O 4 5
C 1 2 Q 1/02 (2006.01)	C 1 2 Q 1/02	4 B O 6 3
GO 1 N 33/48 (2006.01)	GO 1 N 33/53	Y 4 C O 8 6
GO 1 N 33/15 (2006.01)	GO 1 N 33/48	P
GO 1 N 33/50 (2006.01)	GO 1 N 33/15	Z

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 18 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2015-512185 (P2015-512185)
 (86) (22) 出願日 平成25年5月15日 (2013.5.15)
 (85) 翻訳文提出日 平成27年1月13日 (2015.1.13)
 (86) 国際出願番号 PCT/IB2013/053979
 (87) 国際公開番号 WO2013/171696
 (87) 国際公開日 平成25年11月21日 (2013.11.21)
 (31) 優先権主張番号 12168121.7
 (32) 優先日 平成24年5月15日 (2012.5.15)
 (33) 優先権主張国 欧州特許庁 (EP)

(71) 出願人 514288635
 テサン・ファーマシューティカルズ、インコーポレイテッド
 アメリカ国、カリフォルニア州 92008、カールスバッド、オーウェンズ・アベニュー 5864、スイート 200
 (74) 代理人 110001737
 特許業務法人スズエ国際特許事務所
 (72) 発明者 ソーラ、ジャン・ヒレル
 スイス国、ツェーハー 1206 ジュネーブ、リュ・ドゥ・ラテネ 22
 Fターム(参考) 2G045 AA29 BB24 CB09 DA20 DA36
 FA16 FB03
 4B063 QA18 QQ08 QX01

最終頁に続く

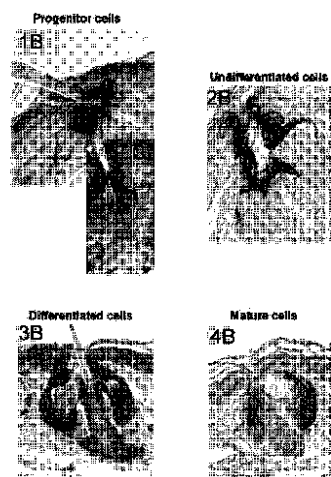
(54) 【発明の名称】 治療用皮脂抑制活性を有する AhR 受容体のリガンドを同定する方法、および前記リガンド

(57) 【要約】

インビボ試験を含み、局所的な皮膚治療における皮脂抑制活性を決定するために物質を分類する方法であって、前記インビボ試験は以下の工程を含む：AhR受容体のリガンドの中から物質を選択すること；CYP1A1遺伝子を発現している哺乳動物を選択すること；皮脂腺を含む前記哺乳動物の皮膚の一部分を、局所経路を介して、用量/反応/反応時間プロトコルに従って前記物質を含む組成物で処理すること；前記哺乳動物の皮膚の当該一部分の皮脂腺におけるCYP1A1の発現を免疫組織化学的染色により試験すること；前記皮脂腺のいくつかの異なる種類の細胞における免疫組織化学的染色の発現のシーケンスの関数に従って前記物質を選択すること。活性物質として5,6ベンゾフラボンを含むことを特徴とする、皮脂産生を減少させるために局所的に使用するための医薬組成物。

【選択図】 図1

Fig.2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

インビボ試験を含むことを特徴とする、局所的な皮膚治療における皮脂抑制活性能を決定するために物質を分類する方法であって、前記インビボ試験は以下の工程を含む：

- A h R 受容体のリガンドの中から物質を選択すること；
- C Y P 1 A 1 遺伝子を発現している哺乳動物を選択すること；
- 皮脂腺を含む前記哺乳動物の皮膚の一部を、局所経路を介して、用量 / 反応 / 反応時間プロトコルに従って前記物質を含む組成物で処理すること；
- 前記哺乳動物の皮膚の前記一部分の皮脂腺における C Y P 1 A 1 の発現を免疫組織化学的染色により試験すること；
- 前記皮脂腺のいくつかの異なる種類の細胞における免疫組織化学的染色の発現のシーケンスの関数に従って前記物質を選択すること。

10

【請求項 2】

前記インビボ試験が、所定の時間内に複数の細胞種において染色を示すときに前記物質が選択されることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記物質が少なくとも 1 つのインビトロ試験に基づいてアゴニスト性を有する A h R 受容体のリガンドの中から選択されることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記インビトロ試験が、C A L U X、E R O D 試験およびそれらの組み合わせの中から選択されることを特徴する請求項 3 に記載の方法。

20

【請求項 5】

前記哺乳動物は、当該皮脂腺が：

- 前駆細胞
- 未分化細胞
- 分化細胞
- 成熟細胞

の活性化のシーケンスを再現することを可能にするように選択されたマウス系統であることを特徴とする先行する請求項のうちの 1 つに記載の方法。

【請求項 6】

前記哺乳動物が、C 5 7 / B 6 マウス系統であることを特徴とする先行する請求項の 1 つに記載の方法。

30

【請求項 7】

前記マウスの耳が、局所的経路により処理され、次にサンプリングされ、および C Y P 1 A 1 発現が抗体を使用する免疫組織化学的試験によって試験されることを特徴とする請求項 5 または 6 に記載の方法。

【請求項 8】

皮脂腺における C Y P 1 A 1 の発現の当該試験が：

- 峽部領域の試験、特に前駆細胞の試験；
- 当該腺の周辺領域の試験、特に未分化細胞の試験；
- 当該腺の中間領域の試験、特に分化細胞の試験；
- 当該腺の中心領域の試験、特に成熟細胞の試験；

を含むことを特徴とする、先行する請求項のうちの 1 つに記載の方法。

40

【請求項 9】

C Y P 1 A 1 の当該発現が、1 週間の処理の後に 2 種類以上の細胞において標識されるときに、前記物質が選択されることを特徴とする請求項 7 に記載の方法。

【請求項 10】

C Y P 1 A 1 の当該発現が、1 週間の処理の後に 4 種類以上の細胞において標識されるときに、前記物質が選択されることを特徴とする請求項 7 に記載の方法。

【請求項 11】

50

ヒトの皮膚疾患、特にニキビ、脂漏性皮膚炎および酒さを治療および/または予防するための組成物であって、前記組成物は、前記組成物の皮膚への局所適用によって高脂漏を治療および/または予防するように構成され、前記組成物は：

- A h R 受容体を活性化する能力；
- A h R によって制御される遺伝子を調節する能力；
- 人体における 2 時間 ~ 96 時間の間の短い半減期；
- 認められた高脂漏の基準において測定可能な陽性作用；

を有する A h R アゴニストリガンドからなる群より選択された活性化物質を含み、および

前記活性化物質は請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項において記載されるインビボ試験によって肯定的に選択される組成物。

10

【請求項 12】

活性化物質として 5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F) を含むことを特徴とする、皮脂産生を減少させることを目的として局所的に使用するための医薬組成物。

【請求項 13】

ヒトの皮膚疾患、特にニキビ、脂漏性皮膚炎および酒さを治療および/または予防するための医薬組成物であって、前記組成物は、前記組成物の皮膚への局所適用によって高脂漏を治療および/または予防するように構成され、前記組成物は、活性化物質として 5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F) を含む医薬組成物。

20

【請求項 14】

5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F) の濃度が、前記組成物の 0.005 重量% ~ 1 重量%、特に 0.1 重量% ~ 1 重量%であることを特徴とする請求項 12 または 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

局所的に使用するための皮脂抑制組成物における活性化物質としての 5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F)。

【請求項 16】

局所的に使用するための皮脂抑制組成物における活性化物質としてのルテカルピン。

【請求項 17】

ヒトの皮膚疾患、例えば、ニキビ、脂漏性皮膚炎および酒さなどを治療および/または予防するための処理方法であって、組成物の皮膚への局所適用によって高脂漏を治療および/または予防するように構成された組成物を提供することと、前記組成物は：

30

- A h R 受容体を活性化する能力；
- A h R によって制御される遺伝子を調節する能力；
- 人体における 2 時間 ~ 96 時間の間の短い半減期；
- 認められた高脂漏の基準において測定可能な陽性作用；

を有する A h R アゴニストリガンドからなる群より選択された活性化物質を含み、

前記活性化物質は請求項 1 ~ 10 の何れか 1 項に記載において記載されたいずれか 1 つのインビボ試験によって肯定的に選択された物質であり、

40

当該ヒトに対して前記組成物を局所的に投与することを含む、方法。

【請求項 18】

皮膚に局所適用するように構成された組成物を提供することと、ここで、前記組成物は活性化物質として 5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F) を含み、前記組成物をヒトに局所的に投与することを含む、ヒトにおける高脂漏を治療および/または予防する方法。

【請求項 19】

5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F) の当該濃度が、前記組成物の 0.005 重量% ~ 1 重量%、特に 0.1 重量% ~ 1 重量%である請求項 18 に記載の方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

50

【 0 0 0 1 】

本発明は、局所的皮膚治療における皮脂抑制活性能 (sebosuppressive activity) を決定するために物質を分類する方法に関する。また本発明はこのような選別により識別可能な物質に関する。

【 0 0 0 2 】

本発明は、特に、高脂漏 (hyperseborrhea) およびそれによって、関連する皮膚疾患、例えば、ニキビ、脂漏性皮膚炎および酒さなどの治療および / または予防を目的とする局所使用のための医薬組成物に関する。

【 背景技術 】

【 0 0 0 3 】

多く物質が、リガンドとして、上皮および間葉皮膚細胞によって顕著に発現される AhR 受容体 (アール炭化水素受容体) と相互作用することができる。文献 WO 2 0 0 4 / 0 4 1 7 5 8、WO 2 0 0 7 / 0 6 0 2 5 6 および WO 2 0 0 7 / 1 2 8 7 2 5 は、そのようなリガンドのアンタゴニスト性またはアゴニスト性を決定するためのインビトロ試験を記載し、皮膚科的治療におけるアンタゴニストリガンドの使用を提案する。現在の当該技術分野において最も頻繁に使用されるこの種のインビトロ試験は CALUX または EROD 試験である。文献 WO 2 0 0 9 / 0 9 3 2 0 7 もまたこのようなインビトロ試験を開示する。

10

【 0 0 0 4 】

2, 3, 7, 8 - テトラクロロジベンゾ - p - ダイオキシン (TCDD) が原型であるアゴニストリガンドとして AhR 受容体と相互作用する化合物は、ほとんどが様々な種類の組織病変を誘発するゼノトキック (xenotoxic) な化合物である。この理由により、皮膚機能を調節する活性剤としてのそのようなアゴニスト化合物の治療的および / または予防的使用が、現在の当該技術分野では排除されていると思われる。

20

【 0 0 0 5 】

それとは逆に、出願人は、参照によりその内容をここに引用する、文献 WO 2 0 0 9 / 0 9 3 2 0 7 では、AhR 受容体のあるアゴニストリガンドの皮膚への適用が、いくつかの皮膚機能、例えば、皮脂腺機能、抗感染防御、創傷治癒、皮膚粗鬆症 (dermatoporosis) およびエストロゲン枯渇に関わる皮膚萎縮などを有利に調節できることを示している。その文献において、出願人は、この特性をこれらの皮膚機能の機能不良を治療するために使用でき、またそれらが、ダイオキシンなどのゼノトキックなリガンドによる過剰な AhR 活性化の 1 つの主要な合併症、すなわち増殖性嚢胞性病変 (proliferative cystic lesions) を引き起こさないようにこれらの物質がどのように選択されるべきかを示した。これらの嚢胞性病変は、正式には「塩素挫瘡」と呼ばれ、これ以後 M A D I S H と呼ぶ (J.H.Saurat et al The cutaneous lesions of dioxin exposure: Lessons from 15 the poisoning of V. Yushchenko, Toxicological Sciences 2012; 125; 310-SI 7)。治療用 AhR リガンドの適用が M A D I S H の原因となることを防ぐために、アゴニストは、それらが迅速に代謝されるように、体内で複数時間 / 複数日の半減期を有するように選択しなければならない。これは、ヒトの皮膚におけるその半減期が複数年において測定され得る原型アゴニスト、ダイオキシンとは異なる。

30

40

【 0 0 0 6 】

文献 WO 2 0 0 9 / 0 9 3 2 0 7 によると、リガンドは好ましくは 4 つの基準を満たすように選択される：

1. AhR 受容体を活性化する能力。

【 0 0 0 7 】

2. AhR によって制御される特異的遺伝子を調節する能力。

【 0 0 0 8 】

3. 人体において、好ましくは 2 時間 ~ 9 6 時間、より具体的には 6 ~ 2 4 時間の短い半減期。

【 0 0 0 9 】

50

4. 認められたこれらの皮膚機能の機能不良の基準において測定可能な陽性作用。

【0010】

アゴニストの特徴を有するリガンドは数多く存在する。文献WO2009/093207はそのようなアゴニストリガンドを数種列挙している。それらのいくつかは、NAhRA s (ナチュラルAhRAゴニスト)と呼ばれる、所謂 ナチュラルリガンド AhRクラスに属する。

【0011】

ヒトにおいて治療に有効な皮脂抑制作用を有すると思われるこれらのリガンドから最善の候補を実際にどのように同定するのもまた知られていない。現在のアプローチは、適切な動物種における皮脂腺の分化領域の萎縮誘導試験を伴う。これらの試験は、複雑な解釈を必要とし、慎重に取り扱われるべきであり、それらは複数週に亘る検討の下で長期に亘るリガンドの適用を必要とするかもしれない。

10

【0012】

そのため、本発明の目的は、高精度、迅速であり、且つ分類結果と選択された物質のヒト皮膚における皮脂抑制特性との間で高相関性を示す、上述において明示されたような分類方法を提供することである。

【発明の概要】

【0013】

発明の主題

この目的のために、本発明はインビボ試験を含む、局所的皮膚治療における皮脂抑制活性を決定するために物質を分類する方法であって、前記インビボ試験が以下のステップを含む方法を提供する：

20

- AhR受容体のリガンドの中から物質を選択すること；
- 皮膚内でCYP1A1遺伝子が誘導される哺乳動物を選択すること；
- 皮脂腺に関して選択された前記哺乳動物の皮膚の一部分を、局所的経路を介して、用量/反応/反応時間プロトコルに従って前記物質を含む組成物で処理すること；
- 前記哺乳動物の皮膚の前記一部分の皮脂腺におけるCYP1A1の発現を免疫組織染色により試験すること；
- 前記皮脂腺のいくつかの異なる種類(区画)の細胞における免疫組織化学的標識の発現のシーケンス(sequence)に関して前記物質を選択すること。

30

【0014】

分析に適している皮脂腺を含んでいることが知られており、またCYP1A1遺伝子が最も誘導されやすい耳の皮膚を特に選択することが可能である。

【0015】

前記物質は、前記インビボ試験が所定の時間内に複数の細胞種が染色を示すときに選択される。

【0016】

試験されるべき前記物質は、好ましくは少なくとも1つのインビトロ試験に基づいてアゴニスト性を有するAhR受容体のリガンドの中から選択される。

【0017】

NAhRAの中からの最も好ましい性質の候補の選択は、それゆえインビトロ試験に基づいて、例えばCALUXおよびEROD試験を使用して、十分なAhRAゴニスト作用の証明および短いインビボ半減期の証明を初めに必要とする。

40

【0018】

本発明の方法の1つの実施形態によれば、前記哺乳動物はマウスである。C57/B6マウス系統を選択することが可能である。

【0019】

この実施形態によれば、さらに詳細には前記マウスの耳が局所的経路を介して処理され、次にサンプリングされ、CYP1A1の発現が、抗体を使用する免疫化学的分析により試験される；特に、それらに限定されるものではないが、使用される抗体は、ウサギ抗ラ

50

ットCYP1A1ポリクローナル抗体(Millipore AB1247)であってもよい。

【0020】

この実施形態において、皮脂腺におけるCYP1A1の発現の試験は：

- 峡部(isthmus region)の試験、特に前駆細胞の試験；
- 当該腺の周辺領域の試験、特に未分化細胞の試験；
- 前記腺の中間領域の試験、特に分化細胞の試験；
- 前記腺の中心領域の試験、特に成熟細胞の試験；

を含み得る。

【0021】

これらの4つの細胞種を試験した後に、1週間の処理の後に少なくとも2つの細胞種においてCYP1A1の発現が標識されたときに、前記物質は選択されることができる。

【0022】

これらの4つの細胞種を試験した後に、好ましくは、1週間の処理の後に4つの細胞種においてCYP1A1の発現が標識されたときに、前記物質が選択される。

【0023】

そのため、本発明の更なる側面によると、本発明の目的は、ヒトの皮膚疾患、特にニキビ、脂漏性皮膚炎および酒さの治療および/または予防のための組成物であって、前記組成物は、皮膚への前記組成物の局所的な適用によって高脂漏を治療および/または予防するように構成されており、前記物質は

- AhR受容体を活性化する能力；
- AhRにより制御されている遺伝子を調節する能力；
- 人体における2時間～96時間の短い半減期；
- 認められた高脂漏の基準において測定可能な陽性作用；

を有するAhRアゴニストリガンドからなる群から選択される活性物質を含み、および

前記活性物質は、先に定義されたインビボ試験によって肯定的に選択される。

【0024】

本発明は、局所的使用のための皮脂抑制組成物の中の好ましい活性物質として、特に、ベータ-ナフトフラボンとも呼ばれる5,6ベンゾフラボン(5,6BZF)を提案する。

【0025】

本発明はまた、局所的使用のための皮脂抑制組成物の中の活性物質として、ルテカルピンも提案する。

【0026】

またさらなる側面によると、本発明の目的は、ヒトの皮膚疾患、例えば、ニキビ、脂漏性皮膚炎および酒さなどを治療および/または予防するための処理方法であって、皮膚への局所的適用により高脂漏を治療および/または予防するように構成されている組成物を提供することと、

前記組成物は：

- AhR受容体を活性化する能力；
- AhRにより制御された遺伝子を調節する能力；
- 人体における2時間～96時間の短い半減期；
- 認められた高脂漏の基準において測定可能な陽性作用；

を有するAhRアゴニストリガンドからなる群から選択された活性物質を含み、

ここにおいて、前記活性物質は先に定義されたインビボ試験によって肯定的に選択され、当該ヒトに前記組成物を局所的に投与することを含む、方法である。

【0027】

本発明の特定の目的は、従って、ヒトにおいて高脂漏に誘導された皮膚状態を治療および/または予防するための方法であって、皮膚への局所的適用のために構成された組成物

10

20

30

40

50

を提供することと、
前記組成物は活性物質として 5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F) を含み、
前記ヒトに前記組成物を局所的に投与することを含む、方法である。

【0028】

添付の図面についての言及とともに述べられた本発明の特定の実施形態の以下の詳細な説明を通して、当業者であれば治療用の局所的な皮脂抑制活性を有する A h R 受容体のリガンドを同定するための新規な方法をどのように決定することができるかを理解するであろう。

【図面の簡単な説明】

【0029】

【図1】図1は、1A、2A、3A、4A部分を含み、これらは、CYP1A1遺伝子を発現することができる4種類の細胞、すなわち：-前駆細胞(1)；-未分化細胞(2)；-分化細胞(3)；-成熟細胞(4)；の皮脂腺内部での位置の概略図である。

【図2】図2は、1B、2B、3B、4B部分を含み、これらは、図1A、2A、3A、4Aに対応する顕微鏡写真観察である；1Cは1B、すなわち前駆細胞の異なる視野角および拡大図を示す。

【図3】図3は、A h R 受容体のいくつかのリガンドの局所的な適用後の図1および図2の脂腺細胞のすべての分集団(sub-population)における時間の関数としてCYP1A1活性の発現を示す。

【図4】図4は、インビトロ試験、本発明に従うインビボ試験および図3のリガンドのヒトにおける皮脂抑制活性の臨床試験の相関関係を示す表である。

【図5】図5は、インビトロ試験、本発明によるインビボ試験および3つのフラボンのヒトにおける皮脂抑制活性の臨床試験の相関関係を示す表である。

【図6】図6は、3つのフラボンによる皮脂産生酵素(sebogenic enzymes)の遺伝子の転写の阻害の比較表である。

【図7】図7は、3つの異なる濃度で5, 6 B Z Fで処理した後に真皮において皮脂腺が占める相対的な表面の比較表である。

【図8】図8は、図7と同じ濃度で5, 6 B Z Fで処理した後の皮脂腺における分化指数の比較表である。

【図9】図9は、図7と同じ濃度で5, 6 B Z Fで処理した後の分化および成熟脂腺細胞の数の比較表である。

【図10】図10は、図7と同じ濃度で5, 6 B Z Fで処理した後の活性化皮脂腺の数の比較表である。

【発明を実施するための形態】

【0030】

分類方法の実施形態の説明

本発明に従うヒトにおける皮脂抑制治療を目的とするA h Rのリガンド分子を分類するための方法は、W O 2 0 0 9 / 0 9 3 2 0 7 に列挙されたいくつかのA h Rリガンドの局所および全身的な投与の際の偶然の予想外の観察結果に基づく。

【0031】

当業者が、本発明の最も驚くべき性質をよく理解できるように、技術水準の以下の要素が、核受容体、例えばA h R、またはさらなる例として、レチノイン酸受容体(R A R)、ビタミンD受容体(V D R)などのリガンドの適用により誘発される皮膚における生物学的現象の分布に関して想起されるに違いない。

【0032】

技術水準によれば、リガンドの局所的または全身的な投与により誘発される生物学的活性は：

- 受容体を発現する全ての体の部位において；および
- 当該リガンドは量的に十分な態様で、また非代謝活性型で、これらの部位において拡散され；

10

20

30

40

50

均一であるべきである。

【0033】

この場合、皮膚へのA h Rリガンドの適用は、はじめに表皮の表層で均一にこの受容体の経路を活性化し、その後、リガンドの侵入勾配により、表皮のより深い層、次に恐らく真皮および付属物、毛髪および皮脂腺へと徐々に拡散する。そのことは事実上公知であり、これは、出願人によって、A h R受容体が皮膚のこれらの区画 (compartments) の全てにおいて均一に発現されていることが証明されている。

【0034】

さらに、最も驚くべきことに、出願人は、A h Rリガンドの皮膚への適用が、前駆細胞から始まる皮脂腺における限局的な態様で、すなわち毛包脂腺の峽部領域内に位置する脂腺幹細胞、続いて未分化脂腺細胞、分化脂腺細胞、そして最後に成熟細胞のシーケンスに、この受容体の経路を活性化することを発見した。これらの結果を図1および2に示す。

10

【0035】

さらに驚くべきことに、強い皮脂抑制活性を持つリガンドは、A h R受容体のインビトロ活性化試験時に最も強い活性を示す必要はなく、図4の表および図3に示されるように初期段階で迅速且つ完全に自然の位置でのこのシーケンスの活性化に従うものである。

【0036】

これらの観察結果は、Rowe MJら (J. Invest. Derm. 2008:128; 1866-68) のものとは異なるために実に驚くべきものである。これらの著者らは、(CYP1A1 - GFPプロモーター) トランスジェニックマウスにおいて、全身的経路を介して投与されたA h Rリガンドによって誘導された生物学的活性は皮脂腺に局在することができたが、次の場合には均一になる：

20

- 第1に、出願人の観察では、投与経路が経皮であり、上記で説明された経皮拡散のために優先的な分布が完全に予測できない。Rowe MJらにより行われた研究においては、3-メチルコラントレンであるリガンドは血液経路を介した皮膚へ接近を必要とする全身的な経路を介して投与され、このことは皮脂腺における脂溶性リガンドの分布は驚くべきものではないことを意味する。

【0037】

- 第2に、また特に、本発明の基礎にある活性化シーケンス：前駆 > 未分化 > 分化 > 成熟細胞：は、皮脂腺の領域における生物学的活性の拡散を明示しているRowe MJら (J. Invest. Derm. 2008:128; 1866-68) によっては観察されていなかった。Roweらによって示されたこの側面は、本発明の皮脂抑制リガンドを分類するための方法という課題を決定することも、または示唆することもいずれもできるものではないであろう。

30

【0038】

皮脂腺におけるA h R受容体活性の連続する限局的な領域の証明

ここで説明される実施形態は、この分野で広く使用される例えばCALUXやERODなどの方法を使用して受容体のインビトロでのそれらの活性化特性について既に特徴づけられたA h R受容体のリガンドを用いた、用量 / 反応 / 反応時間プロトコルに従う局所的経路を介した、C57 / B6マウスの耳の処理を伴う (表1を参照されたい)。

【0039】

前記耳はサンプリングされ、CYP1A1発現は、特異的な抗体を使用する免疫組織化学的分析により試験される。図1は、観察された異なる種類の標識を示す。免疫組織化学の陽性、すなわち図2において茶色に染色されている細胞は、その領域がCYP1A1タンパク質を発現していることを示す。

40

【0040】

1. 基礎的状态では、前記タンパク質は検出できない。

【0041】

2. A h Rリガンドが使用された全ての場合において、CYP1A1免疫組織化学の陽性をもたらす、染色されるのと同時にA h R受容体の活性化により誘導されたCYP1A1タンパク質の増加を示す最初の領域は、皮脂腺の《前駆》細胞が位置する峽部の領域で

50

ある（図 1 A および 2 B）：第 1 段階。これは多能性増殖性細胞に相当し、それゆえ一般的に《脂腺幹細胞》に相当する。峽部領域の特有のトポロジーに加えて、これらの細胞は峽部多能性増殖細胞のマーカであるケラチン 15 および L - R I G 1 の発現により特徴づけられる。C Y P 1 A 1 および L - R I G 1 ダブル染色の使用により、局所由来の A h R リガンドによって活性化された細胞が、事実上この峽部領域でのこの個体群に対応すると断定できると考えられた。

【 0 0 4 2 】

3 . 次の段階は、未分化細胞への染色の拡大であり、これは脂質を含有せず、また一般的に皮脂腺の周辺に位置する（図 2 A および 2 B）：第 2 段階。

【 0 0 4 3 】

4 . 次の段階は、分化細胞への染色の拡大であり、これは脂質を含有し、また一般的に皮脂腺の中間部に位置する（図 3 A および 3 B）：第 3 段階。

【 0 0 4 4 】

5 . 次の段階は、成熟細胞への染色の拡大であり、これは脂質を含有し、また一般的に皮脂腺の中央部に位置する（図 4 A および 4 B）：第 4 段階。

【 0 0 4 5 】

連続的な活性化段階とリガンドの皮脂抑制特性との間の対応

図 4 の表は、局所的な活性化発現の段階および皮脂障害指数、並びにヒト皮膚における作用の間の対応を示す。皮脂障害指数は、皮脂腺の全細胞数に対する成熟および分化細胞の数を数えることにより計算される。成熟および分化細胞の減少は、皮脂産生の障害を表す。ヒト皮膚への作用は、《カジュアルレベル (casual level)》として知られているもの (J. Cosmet Dermatol. 2007 June;6(2):113-8) を使用する皮脂計量試験 (sebometric examination) により決定される。

【 0 0 4 6 】

図 3 および図 4 の表 1 において、使用される略語は以下の意味を持つ：

N S A 1 : ルテカルピン

N S A 2 : ベータナフトフラボン

N S A 3 : T C D D

N S A 4 : F I C Z

N S A 5 : ヒスピジン

N S A 6 : ベータカルボリン

N S A 7 : エソメプラゾール。

【 0 0 4 7 】

図 3 および図 4 (表 1) 間の比較は、1 週間未満の期間内で 4 つの細胞分集団において A h R 経路を活性化する 2 つのリガンド、すなわち 5 , 6 ベンゾフラボンまたは 5 , 6 B Z F と呼ばれるベータナフトフラボン、および T C D D が、ヒトにおいて最も強い皮脂抑制活性を示すものであることを示す。2 つの細胞分集団内の A h R 経路を活性化するルテカルピンは、5 , 6 B Z F の活性よりも弱いが有用な皮脂抑制活性を潜在的に持っている。一方、他のリガンドは、1 つの細胞分集団の A h R 経路を活性化するのみであり、仮にこの活性が高いレベルに達したとしてもヒトでは弱い皮脂抑制活性を発揮するだけである。

【 0 0 4 8 】

5 , 6 B Z F および構造類似体の皮脂抑制特性の説明

5 , 6 B Z F の皮脂抑制活性を、同じ条件の下で、すなわち上述した通りのインビトロ試験、本発明に従うインビボ試験およびヒトにおける臨床試験において 7 , 8 B Z F (7 , 8 ベンゾフラボン) およびフラボンと比較した。結果を図 5 に示す。7 , 8 B Z F またはフラボンではなく、5 , 6 ベンゾフラボンは、最も活性な A h R アゴニスト (T C D D) と同じように皮脂腺におけるそのアゴニスト活性を分布するが、一方、フラボンおよび 7 , 8 ベンゾフラボンはこのような作用を有さないことがわかる。いかなる理論によって拘束されることを望むものではないが、組織分布のこの能力は、A h R 受容体への当該分

10

20

30

40

50

子の親和性に完全には関連していないようであり、これはF I C Zなどのより強い親和性を持つ分子は、5, 6 B Z Fように皮脂腺には分布しないからである。以下に説明するその他の特性と組み合わせて、皮脂腺を標的にするこの特性は、望まれる治療効果を説明することができる。

【0049】

図6は、C 5 7 B L / 6マウスの耳が、5週間に亘り0.5%で3種類の上記の異なるフラボンで処理された時の実験結果を示す。参考の活性物質は1000倍低い濃度のT C D Dであった。

【0050】

R N Aの抽出の後、R T q P C R反応を皮脂性脂質の産生における3つの主要な酵素について行った。その結果を賦形剤で処理されたコントロールマウスと比較した：図6は、3種のフラボンの中でもっぱら5, 6ベンゾフラボンが3つの酵素をコードするm R N Aの発現を大きく阻害を誘導するのに対して、7, 8ベンゾフラボンはむしろ僅かな刺激作用しか持たず、フラボンは顕著な作用を有してはいないことを示す。7, 8ベンゾフラボンではなく、5, 6ベンゾフラボンは、マウスにおけるA W A T 1、E L O V L 3およびF A D S 2などの脂質を特徴づける脂質の産生において重要な酵素の遺伝子の発現を強く阻害し、このことはその脂質抑制作用の部分的に説明する。これらの標的は、先行技術において開示されてはいない。

10

【0051】

分子構造におけるこれらの差異は、第1に受容体活性化特性に関する、第2に可溶性特性に関する変化を引き起こす。これらの後者の特性は前述のように皮脂腺を標的とするための決定因子となり得る。

20

【0052】

5, 6 B Z Fの用量と脂質抑制作用との間の関係

脂質産生の顕著な抑制を得るための5, 6ベンゾフラボンの用量は、特に良好な耐性を確保し、また上述のようなM A D I S H型の囊胞の発現を阻止するために定められるべきであり、それは用量依存性であってもよく、それら自身部分的にこの状況の範囲内で用量に依存する薬物動態に関連していてもよい。

【0053】

この必須段階は、いくつかの局面において達成された。

30

【0054】

1. マウスにおける用量効果

予備研究は、0.05%よりも高い濃度の良好な耐性と、上述の連続的なインビボ活性化試験における活性とを示した。これらの用量効果試験のために、C 5 7 B L / 6マウスは、耳に3~5週間に亘り、週に5日、3つの濃度、すなわち0.1、0.5および1%のB Z Fで処理された。

【0055】

a. 脂質抑制効果は3週間目に分析されたが、その発現は、1週間後に始まる。図7~10は、非常に顕著な効果を示しており、そこにおいてT C D Dなどの有害物質以外の物質では、皮脂腺が占める相対表面およびそれらの活性に関して、並びに未分化、分化および成熟脂腺細胞の割合に関して双方ともこのモデルにおいて誘発できるものは少ない。特に、腺の分化した区分における減少が観察されたが、これは、脂腺細胞の分化が細胞質の脂質過負荷によって規定されることから、皮脂性脂質生成酵素の遺伝子の抑制効果によく一致している。

40

【0056】

b. M A D I S H型囊胞の産生がないときには、耐性は、5週間の処理の後に評価された。これらの高濃度では囊胞性病変は観察されなかった。これらのマウスにおけるH P L Cによる5, 6 B Z Fの血液分析は、いずれも観測可能な濃度(検出感度5 n M)を検出せず、これは、体内で短命のアゴニストの使用に関するW O 2 0 0 9 / 0 9 3 2 0 7の教示を裏付ける。

50

【0057】

2. ヒトにおける耐性および効果

a. 5, 6 B Z F の安定的な 0.5% 処方 を明示した。

【0058】

i. 処方：100 mL のエタノール / P E G 4 0 0 (1 : 1) 中で 0.5 g の 5, 6 B Z F。

【0059】

溶媒：エタノール E M S U R E (登録商標) メルク社カタログ 1.00983 番、バッチ K 4 2 7 5 4 1 8 3。

【0060】

ポリエチレン 400、フルカ社カタログ 81170 番、バッチ 260154 286 または P E G 4 0 0、アルドリッチ社カタログ 202398 番。

【0061】

ii. 安定性：調製後の 6 か月で観察された分解産物なし。

【0062】

b. ヒトにおける使用：当該処方 は、強度の脂漏を患い、且つ イソトレチノインでの経口治療には適さない 11 人の患者、6 人がニキビ、4 人が酒さ、1 人が脂漏性皮膚炎を伴う患者の顔面に対して 1 日 1 回適用された。

【0063】

i. 副作用は認められず、特に小嚢胞の発現を示唆する臨床的兆候は認められなかった。これは、動物で得られた所見の確認をヒトに与えるものである。A h R 受容体の活性化のこの分野において種の感応性は非常に重要な意味をもつ；仮に試験のために選択されたマウス系統が T C D D および 5, 6 B Z F の局所的作用に対して最も感受性があったとしても。そのためヒトにおけるこの耐性は最も重要なオリジナルデータに値する。それは体内で寿命が短いアゴニストの使用に関する W O 2 0 0 9 / 0 9 3 2 0 7 における教示の正確さを裏付け、且つその明確な適用の例証を与える。

【0064】

ii. 脂漏は、適用の 2 ~ 3 か月後の効果の明確な出現を伴って、著しく減少した。ニキビ、酒さおよび脂漏性皮膚炎の症状は、有意に改善または取り除かれた。予め 0.4 ~ 0.5 mg / b w / d a y の中間用量のイソトレチノインを経口投与を受けた患者は、彼らがそれゆえに刺激や不快症状を抑えて処方された局所的な 5, 6 B Z F で同様の効果を得たと判断された。

【0065】

iii. 処置後の 6 人において産生された皮脂の総量を測定するための S e b u t a p e (登録商標) (C U D e r m) パッチテストの使用は、正常な脂漏の範囲に相当するカジュアルレベルを示した。

【0066】

本発明の局所的医薬組成物は、前記組成物の 0.005 重量% ~ 1 重量%、特に 0.1 重量% ~ 1 重量% の濃度の 5, 6 ベンゾフラボン (5, 6 B Z F) を有し得る。

【0067】

結論：関連する皮脂腺の生理病理学的における新規な情報に加えて、本発明は、治療上の使用のための候補皮脂抑制分子の迅速な分類を可能にする。

【0068】

当業者であれば、本発明の範囲を逸脱することなく、C 5 7 B L / 6 マウス系統以外の他の実験用哺乳動物において、記載されている活性化シーケンスの再現を提供するという条件において、本発明の方法を実施することができることを容易に理解するだろう。

【0069】

受容体の活性化力を示すインビトロデータとインビボ効果との間の相違は、恐らく各分子に特有の組織内の動態要素を反映している。そのため本発明の方法主題は、皮膚組織内の脂腺細胞を特異的に標的とする調査を可能にすることを初めて記述する。

10

20

30

40

50

【 0 0 7 0 】

臨床レベルで顕著な皮脂抑制効果の誘導が可能なりガンドは、処理の第1週目ほどの初期に第2段階を超える。最大の活性は処理の第1週目ほどの初期に第4段階に達する。

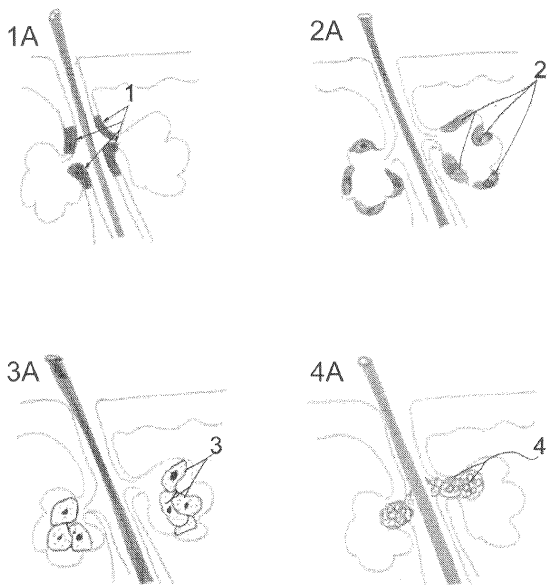
【 0 0 7 1 】

上述の試験の間、本発明によるインビボ試験の後に選択された5, 6ベンゾフラボンヒトにおける局所的適用として皮脂抑制治療での使用可能性を確認する。

【 図 1 】

図 1

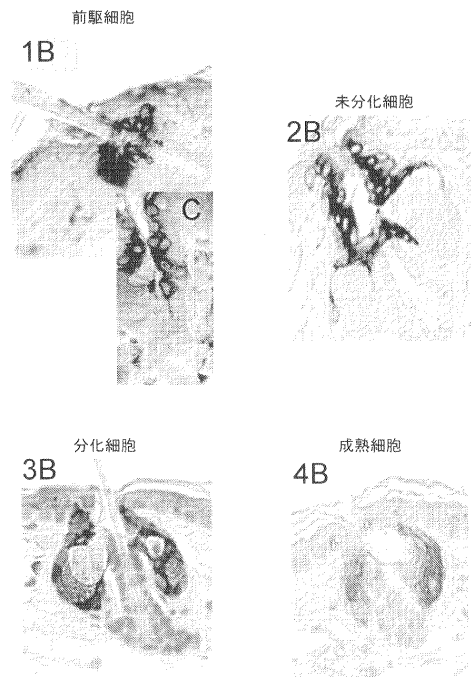
Fig.1



【 図 2 】

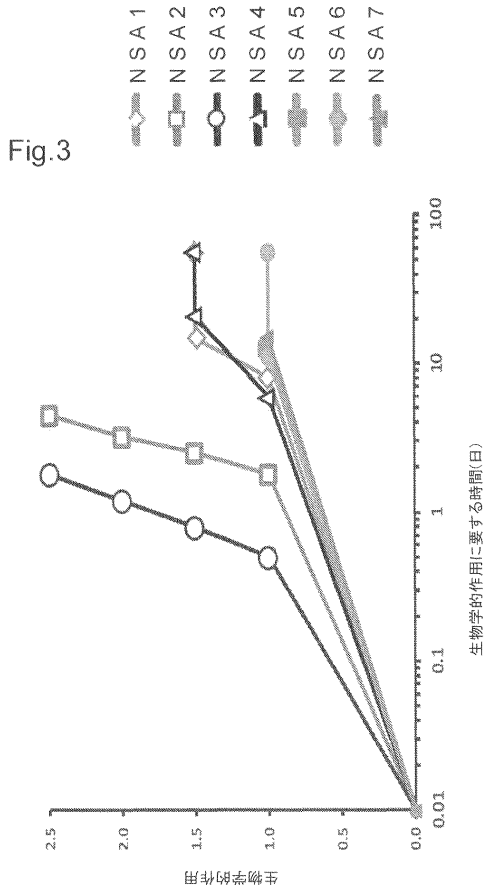
図 2

Fig.2



【 図 3 】

図 3



【 図 4 】

図 4

NSA	CALUXの有効性		ERODの有効性		AhR活性化(Cyp1A1)の局所的な表現				ヒトにおける活性
	濃度	%値 TCDD	濃度	%値 TCDD	前駆	未分化	分化	成熟	
NSA1	10	78	1.0E-06	25	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	28
NSA2	5	13	1.0E-06	20	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	90
NSA3	0.01	100	1.0E-12	100	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	97
NSA4	0.1	76	1.0E-07	60	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	8
NSA5	100	32	1.0E-04	30	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	11
NSA6	100	58	1.0E-04	10	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	16
NSA7	100	17	1.0E-04	17	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	5

表1

活性: 活性 (活性なし) 効果なし (効果なし)

低活性: 低活性 (低活性なし) 効果なし (効果なし)

* 皮脂産生抑制(皮脂分化指数)

Fig.4

【 図 5 】

図 5

物質	CALUXの有効性		ERODの有効性		AhR活性化(Cyp1A1)の局所的な表現			
	濃度	%値 TCDD	濃度	%値 TCDD	前駆	未分化	分化	成熟
TCDD	1.0E-11	100	1.0E-12	100	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
5,6-ベンゾフラボン (ベータナフト)	1.0E-05	13	1.0E-06	20	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
7,8-ベンゾフラボン (アルファナフト)	1.0E-04	18	1.0E-04	4	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
フラボン	1.0E-05	20	1.0E-05	6	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階

Fig.5

【 図 6 】

図 6

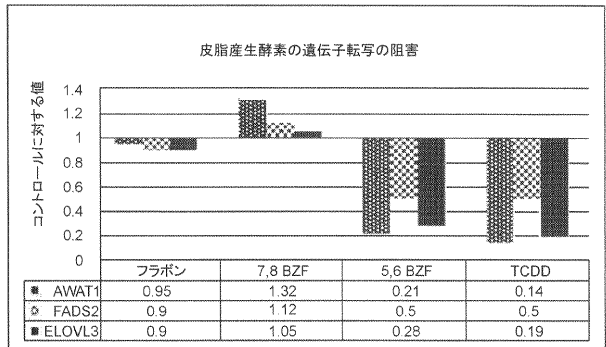


Fig.6

【 図 7 】

図 7

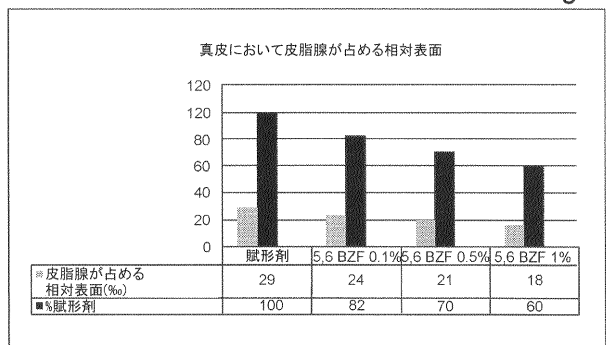
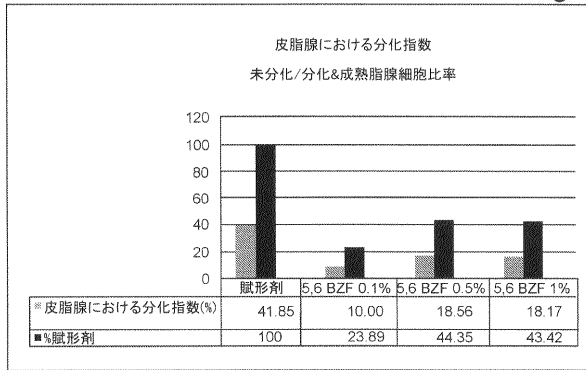


Fig.7

【 図 8 】

図 8

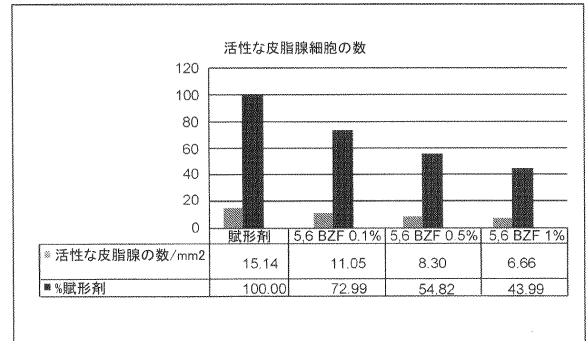
Fig.8



【 図 10 】

図 10

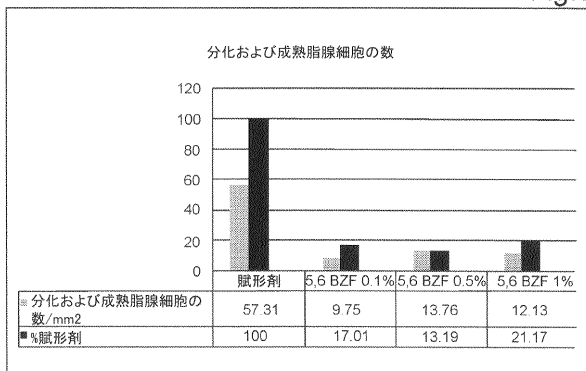
Fig.10



【 図 9 】

図 9

Fig.9



【 国際調査報告 】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/IB2013/053979

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER INV. G01N33/50 G01N33/68 ADD.		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) G01N A61K A61P		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) EP0-Internal, BIOSIS, EMBASE, WPI Data		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 2009/093207 A1 (SAURAT JEAN HILAIRE [CH]) 30 July 2009 (2009-07-30) cited in the application	11, 13-15,17
Y	abstract	1-4,6-10
A	examples 1, 5 claims 1, 2, 7	5,12,18, 19
Y	----- ROWE JO M ET AL: "Illuminating role of CYP1A1 in skin function.", THE JOURNAL OF INVESTIGATIVE DERMATOLOGY JUL 2008 LNKD- PUBMED:18185528, vol. 128, no. 7, July 2008 (2008-07), pages 1866-1868, XP002681894, ISSN: 1523-1747 cited in the application	1-4,6-10
A	the whole document ----- -/-	5
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C.		<input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.
* Special categories of cited documents :		
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance		"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date		"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)		"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means		"&" document member of the same patent family
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed		
Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report	
31 July 2013	14/08/2013	
Name and mailing address of the ISA/ European Patent Office, P.B. 6818 Patentlaan 2 NL - 2280 HV Rijswijk Tel. (+31-70) 340-2040, Fax: (+31-70) 340-3016	Authorized officer Stricker, J	

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No PCT/IB2013/053979

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 2007/110241 A1 (G I M GES FUER INNOVATIVE MEDI [AT]; JUNGBAUER ALDIS [AT]; MEDJAKOVIC) 4 October 2007 (2007-10-04)	11, 13-15,17
A	the whole document claims 1, 2	12,18,19
X	US 2003/166583 A1 (YOA-PU HU OLIVER [TW] ET AL) 4 September 2003 (2003-09-04)	11, 13-15,17
A	the whole document claims 1, 2, 8	12,18,19
X	DE 10 2006 011747 A1 (SYMRISE GMBH & CO KG [DE]) 27 September 2007 (2007-09-27) abstract; claims 1, 3	11,16,17
X	CN 101 953 838 A (DAI LI) 26 January 2011 (2011-01-26) abstract	11,16,17

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No

PCT/IB2013/053979

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date
WO 2009093207 A1	30-07-2009	EP 2082736 A1 EP 2237775 A1 US 2010324109 A1 WO 2009093207 A1	29-07-2009 13-10-2010 23-12-2010 30-07-2009
WO 2007110241 A1	04-10-2007	EP 1842541 A1 EP 2004179 A1 US 2009182028 A1 WO 2007110241 A1 WO 2007110243 A1	10-10-2007 24-12-2008 16-07-2009 04-10-2007 04-10-2007
US 2003166583 A1	04-09-2003	NONE	
DE 102006011747 A1	27-09-2007	NONE	
CN 101953838 A	26-01-2011	NONE	

フロントページの続き

(51) Int. Cl.			F I			テーマコード (参考)
A 6 1 K 31/352 (2006.01)			G 0 1 N 33/50			Z
A 6 1 P 17/08 (2006.01)			A 6 1 K 31/352			
A 6 1 P 17/10 (2006.01)			A 6 1 P 17/08			
A 6 1 P 17/00 (2006.01)			A 6 1 P 17/10			
			A 6 1 P 17/00			

(81) 指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), EP(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC

Fターム(参考) 4C086 AA01 AA02 BA08 MA01 MA04 MA63 NA14 ZA89

专利名称(译)	<无法获取翻译>		
公开(公告)号	JP2015523553A5	公开(公告)日	2016-07-07
申请号	JP2015512185	申请日	2013-05-15
[标]申请(专利权)人(译)	特太阳制药公司		
申请(专利权)人(译)	Tesan制药公司		
[标]发明人	ソーラジャンヒレール		
发明人	ソーラ,ジャン・ヒレール		
IPC分类号	G01N33/53 C12Q1/02 G01N33/48 G01N33/15 G01N33/50 A61K31/352 A61P17/08 A61P17/10 A61P17/00		
CPC分类号	A61K31/352 A61K31/519 G01N33/5088 G01N33/6893 G01N2800/20 A61P17/00 A61P17/08 A61P17/10 A61K9/0014 A61K45/06 A61K47/10		
FI分类号	G01N33/53.D C12Q1/02 G01N33/53.Y G01N33/48.P G01N33/15.Z G01N33/50.Z A61K31/352 A61P17/08 A61P17/10 A61P17/00		
F-TERM分类号	2G045/AA29 2G045/BB24 2G045/CB09 2G045/DA20 2G045/DA36 2G045/FA16 2G045/FB03 4B063/QA18 4B063/QQ08 4B063/QX01 4C086/AA01 4C086/AA02 4C086/BA08 4C086/MA01 4C086/MA04 4C086/MA63 4C086/NA14 4C086/ZA89		
优先权	2012168121 2012-05-15 EP		
其他公开文献	JP2015523553A JP6254580B2		

摘要(译)

包括在体内试验中，将物质进行分类，以确定在局部皮肤治疗皮脂抑制活性性能的方法，在体内试验包括以下步骤：从在AhR受体的配体中选择的物质到；其选择表达哺乳动物CYP1A1基因；哺乳动物的皮肤的一部分，包括皮脂腺，通过局部途径，利用根据剂量/响应/反应时间协议包含所述物质的组合物它处理；所述由皮脂腺CYP1A1的免疫组织化学染色的表达测试的皮肤的部分的哺乳动物；在几种不同类型的序列的皮脂腺细胞的免疫组织化学染色的表达根据功能选择所述物质。其特征在于它包括5,6- benzoflavone作为活性物质，用于局部使用的药物组合物，以减少皮脂的产生。点域1